

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 10 日現在

機関番号：14201

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24320127

研究課題名(和文) 中・近世「菅浦文書」の総合的調査・公開と共同研究 中・近世村落像の再検討

研究課題名(英文) overall investigation, joint research, and opening to the public of "sugaura documents" - reconsideration of village image of the medieval and early modern period in japan

研究代表者

青柳 周一 (aoyagi, shuichi)

滋賀大学・経済学部・教授

研究者番号：40335162

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,000,000円

研究成果の概要(和文)：滋賀大学経済学部附属史料館に寄託されている重要文化財「菅浦文書」の再調査を行い、合計407点の史料を点検した。菅浦文書研究文献データベースを構築して史料館で公開した。滋賀県長浜市西浅井町菅浦で現地調査を実施し、現地に残る史料をデジタル撮影した。最終年度である2015年には史料館で「菅浦文書」と関連史料を用いた企画展を開催し、講演会とシンポジウムも実施した。当研究期間中に論文18件などを公表した。

研究成果の概要(英文)：We reinvestigated "Sugaura Documents", an important cultural property held in the archival museum, faculty of economics Shiga University and analyzed the total of 407 documents. Besides, we constructed a database concerning the articles and books of the Sugaura Documents and opened to the public of it. We also conducted field survey in Sugaura, Nishiazai-cho, Nagahama-shi, Shiga and took pictures of the historical records digitally. In 2015, the last year of the project, we held an exhibition of "Sugaura document" and related documents at the archival museum, hosting a lecture and a symposium. In result, we published the 18 articles during the project.

研究分野：日本近世史

キーワード：史料研究 菅浦文書 荘園史 中世・近世村落史

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 滋賀大学経済学部附属史料館(以下、附属史料館と略)に寄託されている「菅浦文書」(2,158点、中世分1,261点は重要文化財)は、日本中世惣村研究史上にあって、最も代表的な史料群であり、1950年代以降に膨大な数の研究成果が生み出された。また菅浦文書は、荘園史研究や、いわゆる「自力の村」論、中世地域社会論等にも盛んに参照・引用されてきた。しかし、菅浦文書自体の新たな研究は、田中克行氏による『中世の惣村と文書』(1998)や、蔵持重裕氏の『中世村の歴史語り』(2002)等を除くと、近年は減少している。

(2)これは、まとめて活字化された菅浦文書史料集としては唯一の滋賀大学日本経済文化研究所史料館編纂『菅浦文書』(以下、『菅浦文書』と略)に、史料の誤植や人物・花押比定の誤り等が指摘されており、研究に支障を生じさせていることが関係する。菅浦文書の研究を再活性化させるには、菅浦文書の正確な内容を学界において広く共有できる環境を創出しなければならず、そのためには全面的な菅浦文書の再調査と、その作業に基づく新たな史料集の刊行が必要であろう。

(3)また、菅浦文書が伝来した滋賀県長浜市西浅井町菅浦については、中世史料のほか、近世・近現代史料も多く残されている。しかし、「菅浦=中世惣村」という思い込みが強い故か、原田敏丸氏による1960年代の一連の成果を除くと、近世以降の菅浦の研究は現在まできわめて少ない。さらに現地菅浦の阿弥陀寺で近世・近現代史料を大量に保管していること等も確認されているが、それらの調査・公開も現在まで十分に行われているとは言えない。

(4)そこで、本研究では、中世・近世近江の村落の社会構造・環境・景観・産業(商業・漁業)・流通等の諸分野を専門とする研究者を招集し、菅浦文書をはじめ諸関連史料群を共同で調査・研究して、『菅浦文書』の点検・修正を実施することとした。これは、新たな『菅浦文書集成(仮)』の刊行に向けた作業であり、菅浦文書の公開を強力に推進するためのものである。さらに菅浦文書の共同研究を通じて、伝統的村落社会の変化と持続の諸相の解明と、新たな中世・近世村落史の分析方法の展望を目指すこととした。

## 2. 研究の目的

(1)本研究の目的は、(A)菅浦文書全点の再調査と『菅浦文書』の点検・修正、(B)菅浦文書研究・公開拠点の形成、(C)中世・近世史研究者による菅浦文書の通時代的・多角的な共同研究という、3つの課題を達成することである。

(2)(A)については、菅浦文書全点の原本を厳密に検証して、『菅浦文書』の要修正点を確定する。この作業は、菅浦文書に関する研究史を逐次参照しながら進める必要があるため、1950年代以降の研究文献(著書・論文・自治体史)を網羅的に収集して、菅浦文書研究文献データベースを構築する。これは、各文献における史料1点ごとの翻刻・引用状況を全て調査・データ化したものである。以上を通じて、飛躍的に正確性を高めた菅浦文書の翻刻を実現する。

(3)(B)については、附属史料館で収蔵する「菅浦家文書(近世分)」や「菅浦共有文書(近世・近現代分)」等の史料群の再調査と目録化を実施する。史料目録は、附属史料館『研究紀要』に掲載して公表する。また、現地菅浦の阿弥陀寺等が保管する近世・近現代史料をはじめ、他の研究機関・個人所蔵の菅浦文書関連史料の調査・収集・撮影を行なう。菅浦文書研究文献データベースの公開や、本研究で収集した菅浦文書関連史料・菅浦文書研究文献等を附属史料館において利用可能な状況とすることを通じて、高度な菅浦文書研究・公開の拠点を形成する。

(4)(C)については、菅浦文書および諸関連史料群を用いた共同研究を実施する。共同研究では、菅浦の社会構造・環境・景観・産業・流通・宗教・文化について総合的・通時代的に分析し、人々の生活の場=村落の中世から近世にかけての変化・持続と、現在の地域社会との関係性を解明する。共同研究の成果は、論文・研究ノート・研究報告等として公表するとともに、『菅浦文書』の点検・修正にも積極的にフィードバックする。

## 3. 研究の方法

(1)菅浦文書研究文献データベースの構築を推進し、公開する。菅浦に関する研究文献の収集も進め、現物あるいはコピーを附属史料館において公開に供する。

(2)菅浦の現地調査を年に2~3回実施して、阿弥陀寺保管文書等を調査し撮影する。

(3)附属史料館において、研究代表者および分担者による共同研究会を開催する。研究会は年4~6回程度実施し、菅浦文書原本の再調査と点検・修正作業や、(1)および(2)の作業の進捗状況の確認、『菅浦文書集成(仮)』の刊行に向けた準備作業、研究報告と討論等を行う。この共同研究会において、本研究の今後の方針を決定し、問題が生じた際には合議による解決を図る。研究代表者・研究分担者と、各自の具体的な役割分担は、以下の通りである。

青柳周一 研究代表者。菅浦文書調査・研究の総括。菅浦文書による宗教

|       |                          |
|-------|--------------------------|
|       | 史的研究。                    |
| 宇佐美英機 | 研究分担者。菅浦文書による商業・経営史的研究。  |
| 宇佐見隆之 | 研究分担者。菅浦文書による荘園史・交通史的研究。 |
| 水野章二  | 研究分担者。菅浦文書による村落構造研究。     |
| 東幸代   | 研究分担者。菅浦文書による漁業史・舟運史的研究。 |
| 橋本道範  | 研究分担者。菅浦文書による環境史的研究。     |

なお、研究成果については、必要に応じて学会・研究会での研究報告を行う。研究論文を学会誌ないし附属史料館『研究紀要』に掲載する。

(4)「菅浦家文書」・「菅浦共有文書(近世・近現代分)」等の目録を整備して、附属史料館の『研究紀要』に掲載する。

(5)最終年度である27年には、附属史料館において研究成果に基づく菅浦文書の企画展示やシンポジウムを開催する。また研究論文を掲載した『研究紀要』を特別に編集・刊行する。

#### 4. 研究成果

(1)菅浦文書全点の再調査と刊本『菅浦文書』の点検・修正のため、研究代表者・分担者・協力者による研究会を附属史料館で合計21回開催した(24年度4回、25年度5回、26年度6回、27年度6回)。研究会では刊本『菅浦文書』での翻刻内容を点検し、史料中の人物や年代の比定、史料名等を検討した。刊本での誤字や史料名等を訂正し、新たな『菅浦文書集成(仮)』の刊行に向けた作業を進捗させた。期間中に点検・修正した史料は、合計407点である(24年度77点、25年度128点、26年度139点、27年度63点)。25年度以降は作業方法を改善し、年間の研究会の回数も増やしたため、点検・修正数を増加させることができた。ただし27年度は研究会において、(5)に述べる展示及びシンポジウムに関する作業も行ったため、その分点検・修正数は少なくなっている。

(2)24年度に、菅浦文書に関する研究論文・著書・自治体史543件を調査して、文献のタイトル・著者名・発行年(初出)・初出誌または書名・転載書名・利用している史料の番号・翻刻文の有無等のデータを抽出し、「菅浦文書研究文献データベース」を構築した。25年度以降もデータベースの加筆・修正を行い、その内容を継続的に充実させた。現在、データベースは附属史料館において公開に供している。研究文献・著書・自治体史のうち、これまで史料館に未架蔵であったものは購入ないしコピーにより随時入手し、利用可能な状態とした。これら取組を通じて、菅浦

文書の研究・公開のための環境を整備した。

(3)菅浦文書の関連史料の整理と目録化を実施した。期間中に目録を刊行した史料群は、下記の通りである。

「菅浦家文書(近世分)」348点(25年度)

「菅浦共有文書(近世・近現代分)」1,057点(26年度)

「今村惣左衛門家文書」289点(27年度)

「下村善四郎家文書」164点(同)

なお、それぞれの史料目録は、附属史料館『研究紀要』47～49号に掲載して公表した。

あわせて、「大橋半右衛門家文書」、「中川家文書」、「阿原助太夫家文書」といった史料群についても仮目録を作成し、附属史料館において公開可能な状態にすることができた。

(4)滋賀県長浜市西浅井町菅浦における現地調査を、期間中に通算10回実施した(24年度3回、25年度3回、26年度2回、27年度2回)。現地では、阿弥陀寺保管の近世・近代文書を中心に、菅浦郷土史料館及び個人宅保管の近世文書等の撮影・仮目録化を行った。期間中に撮影した史料の点数は1,882点(24年度229点、25年度465点、26年度652点、27年度536点)で、仮目録化した点数は1,622点である(24年度323点、25年度179点、26年度872点、27年度248点)。25年度から撮影した画像を史料館で整理し、1,417点の目録を作成した。また25年度には現地菅浦で須賀神社1250式年祭が開催され、研究代表者・分担者はこれに参加して記録や聞き取り調査を行った。

(5)本研究による成果公表のため、附属史料館において、春季展示「江戸時代の村に生きる 菅浦共有文書から」(会期5月11日～6月12日、観覧者数746人)と、特別展「重要文化財菅浦文書を読み解く」(会期10月13日～11月20日、観覧者数601人)を開催した。は、(3)で述べた「菅浦共有文書(近世・近現代分)」を用いて構成した。は研究会において展示のコンセプトや展示史料選定に関する議論を行い、研究成果を展示内容および展示図録に積極的に反映させることとした。展示図録は研究代表者・分担者・協力者で分担して執筆し、刊行した。特別展とあわせて、関連講演会(講師は長浜城歴史博物館館長・太田浩司氏)と、研究代表者・分担者をパネラーとするシンポジウム「菅浦の歴史と史料を語る」も実施した(10月31日、出席者116人)。

(6)本研究による成果公表のため、附属史料館『研究紀要』49号(28年3月刊行)を特別編集し、研究代表者・分担者・協力者による論文2・研究ノート5・史料紹介1を掲載して刊行した。あわせて特別展関連講演会の講演録と、史料目録2(今村惣左衛門家文書・下村善四郎家文書)も掲載した。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 18 件)

橋本道範、中世菅浦の漁業権 応永四年「堅田証状」の再検討、滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要、査読無、49号、2016、69 - 84  
URI : <http://hdl.handle.net/10441/14633>

橋本道範、日本中世における「水辺」の支配 播磨国矢野庄の「河成」をめぐる、歴史地理学、査読有、58 - 1号、2016、75 - 90

宇佐見隆之、菅浦文書中の浅井氏関係史料をめぐる一視点 浅井井伴を中心に、滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要、査読無、49号、2016、85 - 93  
URI : <http://hdl.handle.net/10441/14628>

宇佐美英機、近世菅浦村に残る膳所藩の定書、滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要、査読無、49号、2016、95 - 105  
URI : <http://hdl.handle.net/10441/14630>

東幸代、近世菅浦の生業、滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要、査読無、49号、2016、107 - 117  
URI : <http://hdl.handle.net/10441/14635>

青柳周一・松井直人、菅浦村の寛保三年争論史料(二)、滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要、査読無、49号、2016、119 - 135  
URI : <http://hdl.handle.net/10441/14629>

青柳周一、菅浦文書を読み直す 滋賀大学経済学部附属史料館での調査事業について、滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要、査読無、48号、2015、47 - 58  
URI : <http://hdl.handle.net/10441/14428>

宇佐見隆之、近江国からみた中世の交通 東への道を中心に、交通史研究、査読無、86号、2015、27 - 40

東幸代、近世後期の琵琶湖舟運 「鱸折廻船」仕法の動揺と浦々の対応、交通史研究、査読無、86号、2015、41 - 55

青柳周一、菅浦村の寛保三年争論関連史料、滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要、査読無、46号、2013、83 - 96  
URI : <http://hdl.handle.net/10441/11337>

[学会発表](計 12 件)

橋本道範、日本中世における「水辺」の支配 播磨国矢野庄の河成をめぐる、第

58回歴史地理学会大会、2015年6月28日、山形県立米沢女子短期大学(山形県米沢市通町)

橋本道範、地域環境史の課題、日本史研究会9月例会、2015年9月20日、京都大学(京都府京都市左京区吉田本町)

橋本道範、地域環境史の課題 総合研究『前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究』の取り組み、琵琶湖博物館研究セミナー、2015年12月18日、琵琶湖博物館(滋賀県草津市下物町)

青柳周一、菅浦文書研究の到達点、長浜城歴史博物館企画展示関連講座、2014年11月29日、勤労者福祉会館「臨湖」(滋賀県長浜市港町)

宇佐見隆之、近江国からみた中世の交通 東への道を中心に、交通史学会第3回(第40回)大会、2014年5月11日、滋賀大学経済学部(滋賀県彦根市馬場)

東幸代、近世後期の琵琶湖舟運、交通史学会第3回(第40回)大会、2014年5月11日、滋賀大学経済学部(滋賀県彦根市馬場)

橋本道範、一五世紀における魚類の首都消費と漁撈 琵琶湖のフナ属の旬をめぐる、第89回生地談話会、2014年12月8日、岡山理科大学(岡山県岡山市北区理大町)

東幸代、近世からみる菅浦の文化的景観、シンポジウム「菅浦の文化的景観」、2013年3月9日、菅浦自治会館(滋賀県長浜市西浅井町)

橋本道範、日本中世の「水辺」と村落 近江国蒲生郡奥嶋の事例から、鎌倉遺文研究会第191回例会、2013年5月23日、早稲田大学文学学術院(東京都新宿区早稲田)

橋本道範、日本中世における「水辺」と村落 「資源のより稠密な利用」をめぐる、琵琶湖博物館研究セミナー、2013年3月15日、琵琶湖博物館(滋賀県草津市下物町)

[図書](計 4 件)

青柳周一・東幸代他編著、サンライズ出版、江戸時代 近江の商いと暮らし 湖国の歴史資料を読む、2016、318

橋本道範編、滋賀県ミュージアム活性化委員会、みんなで語る「ふなずし」の歴史、2015、295

6. 研究組織

(1) 研究代表者

青柳 周一 (AOYAGI, Shuichi)  
滋賀大学・経済学部・教授  
研究者番号：40335162

(2) 研究分担者

宇佐美 英機 (USAMI, Hideki)  
滋賀大学・経済学部・教授  
研究者番号：60273398

宇佐見 隆之 (USAMI, Takayuki)  
滋賀大学・教育学部・教授  
研究者番号：40319562

水野 章二 (MIZUNO, Syoji)  
滋賀県立大学・人間文化学部・教授  
研究者番号：40190649

東 幸代 (AZUMA, Sachiyo)  
滋賀県立大学・人間文化学部・准教授  
研究者番号：10315921

橋本道範 (HASHIMOTO, Michinori)  
滋賀県立琵琶湖博物館・研究部・専門学芸  
員  
研究者番号：10344342

(4) 研究協力者

大河内 勇介 (OOKOUCHI, Yusuke)  
福井県庁生涯学習・文化課

松井 直人 (MATSUI, Naoto)  
京都大学大学院文学研究科博士後期課程

竹内 光久 (TAKEUCHI, Mitsuhisa)  
米原市教育委員会萬留帳翻刻調査室

堀井 靖枝 (HORII, Yasue)  
滋賀大学・経済学部・助手

南田 孝子 (MINAMIDA, Takako)  
滋賀大学・経済学部・教務職員